

## 平成 22 年度活動報告

平成 22 年度通常総会(平成 22 年 2 月 26 日)で承認された平成 22 年度事業計画に沿って、公益事業として協会事業の充実に努めました。平成 22 年度は、公的試験研究機関や大学、企業の研究開発内容の発信をさらに一層充実させると共に、会員企業や会員の広報活動の支援を強化して、経営基盤の確立に努めてまいりました。具体的な事業実施の結果は以下の通りです。

22 年度末における会員数は、法人会員 7 社(平成 21 年度から 3 社減) 個人会員 21 名(平成 21 年度と変動なし)です。

### I.集会

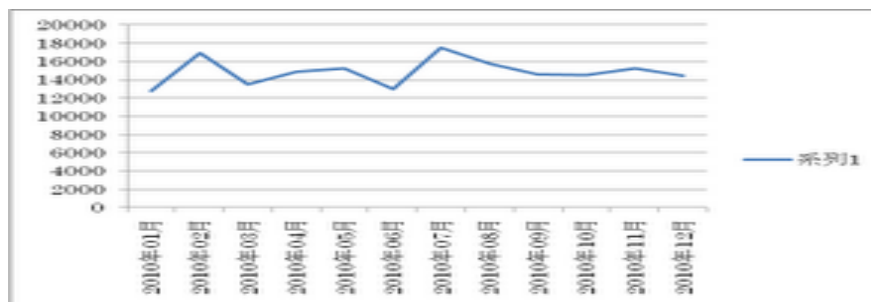
- (1) 総会 1 回 平成 22 年 2 月 26 日
- (2) 理事会 1 回 平成 22 年 2 月 26 日

### II.事業

#### 1 ホームページの充実と個人会員の増強

2010 年度のアクセスは以下の通りです。

機械技術協会ホームページへのアクセス数



2010年1月	12772
2010年2月	16945
2010年3月	13467
2010年4月	14873
2010年5月	15250
2010年6月	12995
2010年7月	17493
2010年8月	15761
2010年9月	14577
2010年10月	14532
2010年11月	15253
2010年12月	14430
合計	178348

カテゴリーごとの概要は以下のようになりました。

(1) 機械技術の広場

第 49 回 人類初の動力飛行をしたのは誰か？ 矢田 恒二 2010 年 4 月 25 日投稿

第 48 回 自動車用 CVT に立ちはだかるコストの壁 矢田恒二 2010 年 03 月 15 日投稿

第 47 回 ヘンリーフォードはパテント・トロールに悩まされた 矢田 恒二 2010 年 2 月 27 日投稿

の 3 件が投稿されました。

(2) 機械技術講座

工作機械発展の歴史(3)関口博 2010 年 02 月 23 日投稿 11p(862KB)

本年度の投稿は上記の 1 件がありました。

(3) 全国公設試の加工技術

以下の 20 号を掲載しました。

第 51 号 山梨県工業技術センター「AI 用高周波急速加熱熱処理装置を開発」

第 52 号 埼玉県産業技術総合センター「薄膜剥離の非接触検出を可視化」

第 53 号 広島県立総合技術研究所東部工業技術センター「ウォータージェット表面処理法における防錆法を開発」

第 54 号 北海道立工業試験場「超塑性アルミ合金の過熱水蒸気加圧によるブロー成型装置を開発」

第 55 号 茨城県工業技術センター「マグネシウム合金の超塑性変形を利用した温間ブロー成形」

第 56 号 愛知県産業技術研究所「難燃性マグネシウム合金の切削屑利用による多孔質 Mg 合金を製作」

第 57 号 兵庫県立工業技術センター「SUS 粉末積層造形品に対するマグネシウム溶浸複合材の開発」

第 58 号 岡山県工業技術センター「Mg 合金と Al 合金シート材の YAG レーザによる異材接合」

第 59 号 埼玉県産業技術総合センター「EPD 砥石による光学ガラスの高速鏡面加工を実現」

第 60 号 福岡県工業技術センター「レーザ干渉縞を利用したレンズ金型の机上形状評価装置の開発」

第 61 号 新潟県工業技術総合研究所「焼入れ鋼の cBN1 枚刃エンドミルによる鏡面加工」

第 62 号 石川県工業試験場「微細穴あけ・狭ピッチ加工の可能な快削性セラミックスを開発」

第 63 号 山形県工業技術センター「FCD と SUS の異種金属ファイバーレーザ接合」

第 64 号 埼玉県産業技術総合センター「超音波振動付加によるシンニング微細ドリル加工で深穴の高品質化」

第 65 号 北海道立工業試験場「超塑性アルミニウム合金の過熱水蒸気を用いたブロー成形装置を開発」

第 66 号 奈良県工業技術センター「DLC 膜同士による摺動部の摩擦・摩耗の低減」

第 67 号 山梨県工業技術センター「エキシマレーザによるグラッシーカーボンに対する微細加工」

第 68 号 宮城県工業技術センター「単結晶 SiC ウェハの高エネルギー・超精密研削加工技術を開発」

第 69 号 大阪府立産業技術総合研究所「バナジウム炭化物の球状化処理による各種材料の複合機能化」

第 70 号 福岡県工業技術センター「イオン交換樹脂粉砕粉を顔料とする樹脂被覆 Mg 合金上への銅/ニッケルメッキ処理」

#### (4) 週刊機械技術

第 238 号から第 266 号までの 38 号を継続して掲載しました。

その後の改革 WG の議論を反映して、5 年にわたって休むことなく掲載してきました「週刊機械技術」を休刊しました。「週刊機械技術」発刊当時は、インターネットによる情報流通が期待されながらも、実質が必ずしも伴わない状況でした。しかし、近年は、企業や大学等における技術開発成果のプレス発表（プレスリリース）が一般的になって、一般紙や専門紙の内容はそれと重なるものになってきています。機械技術協会の「週刊機械技術」と同様な取り組みも出現してきています。マスコミ報道では、技術開発元のホームページ等に公開されていない技術開発の動向、取り組みや成果が報道されること等、これからも重要な役割は続きます。さらに、技術内容や意義を評価・解説する記事もインターネット上に多くなってきた等を総合的に検討した結果です。

そして、社団法人機械技術協会ホームページの再構築を目指して、ホームページ WG とも連携して検討を行い、公的試験研究機関（公設試や産総研等の独立行政法人等）の活動にこれまで以上に焦点をあてることになり、仮称「公設試ウィークリー」を、2010 年内を目処に発行することになりました。結論として、発行に至らず、準備を継続している状況です。

なお、ホームページの再構築については実現していない。

#### 2 矢田恒二氏の講座の電子出版について

矢田恒二著「歯車応用機構の設計」の電子出版については、本文の改訂を終了し、索引を準備する段階になっているが、発行には至っていない。

#### 3 新企画 シリーズ

実現していない。

#### 4 その他

産総研を訪ねて依頼したが、実現していない。

会員サービスとして、産総研 TODAY の郵送サービスを継続しました。

以上